北九州市立大学　ダイバーシティ推進検討会議事務局 発行

ダイバーシティ通信

2024 7月号

2023年度のふりかえり

副学長　内田 晃
（ダイバーシティ推進担当）

本学では「北九州市立大学ダイバーシティ宣言」を掲げ、北方・ひびきの両キャンパスにおいて、さまざまな取り組みを継続的に進めているところです。

2023 年度は「無意識のバイアス」をテーマに啓発研修を実施し、教職員の多様性に対する理解を深めました。また、入試時の託児サービスやベビーシッターの斡旋を通じて、子育て中の方々の支援を実現しました。広報啓発活動では、通信の発行や HP の開設、学内掲示板の設置などを行いました。さらに、ダイバーシティ週間やシリーズ講座、図書館におけるダイバーシティ関連図書の充実も進め、学生や教職員が自発的に学ぶ機会を提供しました。一般事業主行動計画の目標達成に向けた取り組み（正規教職員に係る休暇等制度一覧の作成等）は、大学の組織文化におけるダイバーシティ＆インクルージョンの理念を強化しました。その他、性別欄の削除や公募書類の見直しも随時実施してきました。

2024 年度も、23 年度の取り組みを基盤にしてさらなるダイバーシティ推進を目指したいと考えています。まず、引き続き一般事業主行動計画の目標達成に向けた取り組みを行います。

新規では、地域共生教育センター（421Lab.）のご協力を得て「DE＆I 学生プロジェクト」を立ち上げ活動を開始する予定です。学生主体の活動を活発化させ、人権意識を高めたり、多様な視点を取り入れるねらいがあります。これにより、学生が主体となってダイバーシティ推進に取り組むプラットフォームを提供します。

また、各事務部局にダイバーシティ推進協力員を指定することで、組織内での理念の浸透と部局内の連携を促進します。また、「九州・沖縄アイランド女性研究者支援ネットワーク」への参加を通じて、地域との連携を強化し、さらなる学際的な交流を図りたいと考えています。

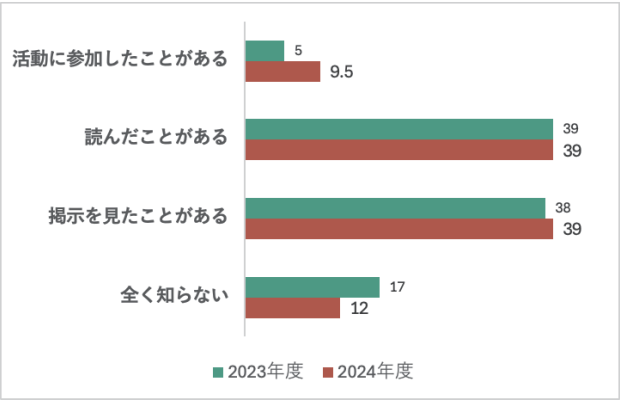
本学は２つのキャンパスに分かれているため、キャンパス間での情報共有や連携をいかに進めていくかが課題の一つです。また、バリアフリーに向けた環境整備もさらに進めていく必要があると考えます。多様性と包摂性にかかる専門的学びの機会を提供していくことも大切です。年度内にはすべての課題に取り組むことは困難ですが、昨年同様今年度もできるところから少しずつ活動を進め、一人一人の人権が尊重される学びの場づくりや、多様性を尊重する雰囲気づくりを目指していきたいと思います。

本学ダイバーシティ宣言

６月に実施した「ダイバーシティ推進活動認知度調査」では、教職員 188 名の方々に回答していただきました。ありがとうございました。

昨年の同調査実施時と比較し、本学のダイバーシティ宣言の周知度がわずかながら向上していることがわかりました。

ダイバーシティ宣言をどの程度知っていますか (%)



DE&I 学生プロジェクト 発足

2024 年度から学生によるダイバーシティ推進を目的とした「DE&I 学生プロジェクト」が発足しました。地域共生教育センターの御協力を得ながら、大学内外の Diversity（多様性）・Equity（公平性）・Inclusion（包摂性）を促進すべく、いろいろな活動に取り組んでいく予定です。7 月現在は 6 名の学生メンバーで進めていますが、常時新規メンバーを募集しています。

6 月に学生を対象に実施した「ダイバーシティ推進活動認知度調査」では、大学が実施しているダイバーシティ推進のための活動などについて、もっと広報してほしいという希望が多く挙げられていました。また、大事な取り組みなので応援したいという声も寄せられました。

できることは限られていますが、誰もが安心してキャンパス・ライフを送れるように、学生目線を生かして取り組んでいきたいと思います。

ダイバーシティ推進協力員からのメッセージ（第 1 弾）

金井 逸人
（地域・学生課 地域貢献係）

本学教職員や学生の社会貢献、地域からの相談に対応する私の部署では、組織内外さまざまな立場の方々と協働することが求められます。その意味で多様性を受容し、一つひとつの物事を捉え、アウトプットすることが日常。「決めつけない」を前提に、丁寧な業務遂行に努めたいと思います。

堤　ちひろ
（入試・研究支援課 入学試験係）

本学が学生・教職員にとって、各自のライフスタイルに応じた柔軟な生き方・働き方ができるとともに、多様な個性を生かせる場所（環境）であってほしいと思います。

協力員として、まずは日々の業務をダイバーシティの観点から見直す機会を増やし、その推進に寄与できればと考えています。

小畑 梨乃
（企画戦略課 広報係）

広報係は、多様な媒体で本学の魅力を発信していますが、地道な作業が多く試行錯誤の繰り返しです。ダイバーシティ推進についても同様に考えています。どう取り組めば一歩前進するのか、現実から目を逸らさず一つひとつの課題に対処しなければなりません。推進協力員として、本学に携わる全ての方にとって、学び、働きやすい環境の実現に努めてまいります。